



187

高校生向け

年組

ケアラー 自分も当事者に

「なる可能性ある」半数

県政世論調査

県が実施した2023年度の県政世論調査で、家族の介護や世話を担う「ケアラー」になる可能性が「十分にある」と回答した県民の割合が49・4％と半数に上ったことが24日までに分かった。特に30～50代で当事者意識が強く、60代以上の3人に1人も介護する側となる可能性が高いと捉えている。超高齢社会を迎え、多くの県民が介護を身近に感じている現状が浮き彫りになった。

30～50代 意識高く

調査は6月、県内在住の18歳以上の男女2千人に郵送し、1115人（55・8％）が回答した。ケアラーとなる可能性が「十分にある」と答えた割合が49・4％、「あまりない」が23・1％、「ない」は17・1％だった。「実際に介護や看護を行っている」は7・4％、無回答は1・0％だった。

「十分にある」と答えた人の割合を年代別に見ると、最も高いのが40代で64・9％。30代60・4％、50代59・4％、60～64歳54・0％と続いた。65～69歳と70歳以上も4割弱となっており、「老老介護」を想定する高齢者も多いとみられる。

調査結果を受け、県保健福祉課の担当者は「年代にかかわらず、多くの人が

多く、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が30・9％、「聞いたことはない」が22・5％だった。

必要な支援としては「相談窓口の設置・充実」や「関係者の連携による支援体制の整備」、一時的に休息を取れるようなサービスの充実」が上位に並んだ。

県が本年度実施したケアラーの実態調査では、当事者の6割以上が心身の健康に悩んでいた。介護の負担が女性に偏っていたりする現状が浮かび上がった。県は両調査の結果を踏まえ、ケアラー支援の推進計画を年度内に策定する方針。

今後ケアラーになる可能性を聞いた質問への年代別回答率（）内は回答者数

	十分にある	あまりない	ない	実際に介護中	無回答
10代(11人)	27.3(%)		36.4	36.4	
20代(77人)	48.1		31.2	16.9	3.9
30代(111人)	60.4		28.8	7.2	3.6
40代(154人)	64.9		14.3	13.6	5.8
50代(175人)	59.4		12.0	13.1	14.9
60～64歳(124人)	54.0		22.6	13.7	8.1
65～69歳(97人)	36.1		39.1	16.5	7.2
70代以上(355人)	38.0		24.2	24.2	16.8

(2023年9月25日付・下野新聞1面)

設問

【1】記事に照らして、「ケアラー」とはどのような人を言いますか。本文から抜き出して教えてください。

【2】記事に照らして、県政世論調査の結果について正しいものには○、そうでないものには×で教えてください

①調査は県内在住のすべての年齢の県民を対象に行っている（ ）

②今後「ケアラーになる可能性が十分にある」と回答した県民の割合は半数を超えている（ ）

③今後「ケアラーになる可能性が十分にある」と回答した県民の年代別は30代が最も多い（ ）

④「実際に介護中」と回答した県民の年代別は50代が最も多い（ ）

【3】記事に照らして、県政世論調査の結果について正しいものには○、そうでないものには×で教えてください

①ケアラーという言葉と意味に関する質問で「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した割合が最も高かった（ ）

②ケアラーという言葉で「聞いたことはあるが、内

容は知らない」と回答した割合は30％を超える（ ）

③ケアラーという言葉で「聞いたことはない」と回答した割合は4分の1以上だった（ ）

④ケアラーという言葉の内容を知らない人は半数を超える（ ）

【4】記事にある県政世論調査で、「ケアラーが社会から孤立することなく、安心して生活するために、今後、どのような支援策が必要だと考えますか」という質問に対して上位5項目は以下のようになっています。②～⑤の中からあなたが考える具体的な支援策を100字程度で教えてください。

①ケアラーが不安や悩みを相談できる窓口の設置・充実 64.8％

②福祉・医療・保健関係者の連携による支援体制の整備 50.3％

③ケアラーが一時的に休息をとれるようなサービスの充実 48.5％

④地域や社会でケアラーを支える意識の醸成（広報や啓発活動等の実施） 40.6％

⑤介護等の専門職に対するケアラー支援についての研修の充実等、ケアラーを支える人材の育成 38.1％

参考：2023県政世論調査速報